

取組事例の名称		Jヴィレッジ清掃業務	
概要	対象	Jヴィレッジ場内	
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input checked="" type="checkbox"/> その他 （ 環境改善 ）	
	規模	Jヴィレッジ敷地内とセンターハウス等建物内のゴミ収集および清掃並びに簡易トイレの清掃	
	実施会社	西松建設株式会社	
	実施場所	福島 県	広野 市・町・村
	発注者	東京電力株式会社	
	<p>1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称</p> <p>震災から2週間後、Jヴィレッジは自衛隊、東京電力および関係協力企業で数千人規模の活動拠点となっていた。寝食は床に毛布を敷いて確保し、周辺はタイベックス、下着類、マスク、軍手などの物資、さらには、食料・飲料等が占拠していた。また、館内の水洗トイレは使用できず、何千人もが野外に設置した簡易トイレを使用していたが、20基ある簡易トイレはすべて汚物があふれんばかりの状況でありながら、我慢して使用するしかなかった。このような状況下、少しでも従事者の環境改善になればと、簡易トイレと館内の清掃およびゴミの集積を実施した。</p>		
<p>2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果</p>			
<p>(写真、イラスト)</p>			

取組事例の名称	Jヴィレッジ清掃業務
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <p>人の排泄物は一般廃棄物であり、広野町での処分が基本である。しかしながら、広野町の処分場は震災後機能しておらず、本来許されていないが隣接するいわき市に御願いすることになった。</p> <p>簡易トイレについては3月25日以降、以前の劣悪な状況になることはなかった。</p>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>当社の名前がJヴィレッジ内に出るようになったのは、簡易トイレの清掃活動をやった会社という評価だった。建設会社なのであまり自慢できることではないが、発注者からは身に余る謝辞をいただいた。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>やはり環境が劣悪になればなるほど、下の処理が重要である。</p>	
NETIS登録	—